



平成28年6月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

熱海地区でヒラメ稚魚を放流



解説：中間育成とは、種苗生産施設で生産された種苗を、生け簀や陸上水槽などで放流に適した大きさまで育成し、天然で十分生残できる種苗にすること。

大熱海漁業協同組合は、5月13日に熱海市曾我浦地先と伊豆山地先でヒラメ稚魚の放流を行いました。放流したヒラメ稚魚は、静岡県温水利用研究センターで生産した平均全長約3cm種苗10,000尾を、4月19日から大熱海漁協近く設置した陸上水槽で中間育成してきたもので、放流時の平均全長は約6cm、放流尾数は曾我浦・伊豆山合わせて7,600尾でした。

海の資源を守ることの大切さを学ぶため、熱海市立第二小学校と熱海市立伊豆山小学校の児童が放流作業に参加しました。児童達は当场職員によるヒラメの生態や栽培漁業について説明を聞いた後、乗船してヒラメ稚魚を海中に放流しました。

テングサ作柄の予測

3月中旬から4月下旬に、伊豆半島の白浜から八木沢にかけての11地区30地点でテングサの生育状況を潜水調査しました。テングサの作柄は地区によってばらつきが大きく、伊豆東部（下田市）で前年並みから増、伊豆南部（南伊豆町）で前年並、伊豆西部（松崎町～伊豆市土肥）で前年並みから減、



県全体としては前年並みから減と予察されました。

解説：本県は全国有数のテングサ生産県で、平成27年の生産量（111トン）は愛媛県に次いで全国2位。県内では伊豆半島西岸で多く生産されている。

平成28年度定置協会総会開催

平成28年5月20日に伊東市観光会館で平成28年度一般社団法人静岡県定置漁業協会通常総会が開催されました。定置協会会員をはじめ約80名の出席があり、議案は全て承認されました。総会後の記念講演では、網代漁業株式会社の泉澤氏より、大震災に備えた定置漁業の対応について、日本鯨類研究所の西脇氏より、定置網に迷入する鯨類の実態や対処法等についてお話いただきました。



解説：静岡県内で営まれている定置網は大型約10ヶ統、小型約100ヶ統で漁獲量は7,000t弱。地域産業を支える重要な基幹漁業の一つ。漁獲主対象はブリやサバなど。

6月の予定 ●3日に乾燥ナマコの製造講習会が開かれます。●マダイの中間育成が始まります。●26日放映のNHK番組「うまいっ！」にテングサで研究員が出演予定です。●キンメダイ種苗生産研究のために親魚捕獲、船上受精を開始します。●アワビの初期稚貝の分布と環境要因の関係を明らかにするために潜水調査を実施しています。

6月18日(土)に伊豆漁協魚市場で『水産祭り』が開催されます。さざえチャウダーが試験販売されます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。